

漢文 (一)

漢文 の 訓読の基礎

今回の学習のポイント

訓読って何？

国語監修・執筆

初山秀夫

訓読って何？

■漢文と日本語

「漢文」 我 作 詩。

「日本語」 我 詩を作る。

漢文はすべて漢字でできている文章で、日本語と共通する文字も多いので、日本人は漢文を見ると何となくわかったような気になってしまうものです。しかし、漢文の語順は英語に近く、日本語とは異なる場合が多くあります。また、漢文は、助詞、助動詞や用言の活用語尾にあたる要素がほとんどありません。ですから、漢文を日本語として読む際には、

- ① 日本語の語順に合わせて読む
- ② 助詞、助動詞を補う
- ③ 活用語尾を補う

といったようなことが必要になってきます。

■訓読

日本人は古くから漢文を日本語の文法にしたがって読むことができ、また、日本語として理解できるように読み方を工夫してきました。それが「訓読」と呼ばれる方法です。漢文にはない助詞などを補った仮名を「送り仮名」、日本語と同じ語順にするための記号を「返り点」といいます。「送り仮名」などのついていない、原文のままの漢文を「白文」といいますが、その「白文」に「送り仮名」「返り点」「句読点」(これらを訓点といいます)をつけることによって、漢文を日本語として読むことを「訓読する」といいます。

「白文」 有 備 無 患

「訓読した文」 有 備 無 患 (「訓読漢文」)

* 「うれ」は「振り仮名」。読み方を示す仮名で、訓点ではありません。

●送り仮名……漢字の右下に、カタカナで小さくつけます。文語文法にしたがい歴史的仮名遣いを用います。

●返り点……漢字の左下に小さくつけます。下の一字から上の一字に返る「レ点」や、二字以上離れた文字から上にある文字に返る「一・二点」などがあります。

●句読点……文の切れ目を示す句点（。）と、文中の意味の切れ目を示す読点（、）があります。

☆「鬼と会ったら途中より、帰れ（ヨ・ニ・ト会ったら途中ヨリ返れ）」

文中で「ヨ・ニ・ト・ヨリ」という送り仮名が出てきたら、ひっくり返って読みなさいということです。（昔の人が言っていたことです。）

■熟語の構造

漢文には、特有の語順のきまりがあります。ふだん私たちが使っている漢字の熟語には、漢文が元になっているものがたくさんありますので、訓読のきまりにしたがって読み、熟語の成り立ちを考えてみましょう。

日本語と同じ語順の構造

〈例〉①主語 + 述語

地震 ↓ 地が 震える

②修飾語 + 被修飾語

高山 ↓ 高し 山

日本語と異なる語順の構造

〈例〉①述語 + 補語

乗馬 ↓ 馬に 乗る

*補語は行為の行われている場所や原因を表す語です。

②否定語 + 被否定語

無力 ↓ 力が 無い

まとめ

漢文・漢語は、実はとても身近な存在です。「助長」「杜撰」「蛇足」「矛盾」等々、聞いたり、使ったりしたことはありませんか。ここに挙げたのは二字の熟語だけです。漢文の世界は豊かです。漢文を学ぶことによって、語彙が豊富になるだけでなく、人との良好な人間関係を築くための、あるいは、人生を立派に切り開いてゆくための知恵を手に入れることができるのではないかと思います。時には傷ついた心に癒やしを与えてくれるかもしれません。漢文は昔の人からの贈り物と思ひ、積極的に触れてみてください。